製品安全データシート

１．化学物質等及び会社情報

【製品名】　ＥＮＥＯＳ　サビガード

【会社名】　ＪＸ日鉱日石トレーディング株式会社
東京都千代田区大手町二丁目６番３号
TEL03-6803-8130　FAX03-6803-8534

２．　危険有害性の要約

危険有害性情報

物理化学的危険性

火薬類	分類対象外
可燃性/引火性ガス	分類対象外
可燃性/引火性エアゾール	分類対象外
支燃性/酸化性ガス	分類対象外
高圧ガス	分類対象外
引火性液体	区分４
可燃性個体	分類対象外
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	区分外
自然発火性個体	分類対象外
自己発熱性化学品物質	分類対象外
水反応可燃性化学品	分類対象外
酸化性液体	分類対象外
酸化性個体	分類対象外
有機過酸化物	分類対象外
金毒腐蝕性物質	分類対象外

人健康有害性

急性毒性(経口)	分類できない
急性毒性(経皮)	区分外
急性毒性(吸入：ガス)	分類できない
急性毒性(吸入：蒸気)	分類できない
急性毒性(吸入：粉塵)	分類対象外
急性毒性(吸入：ミスト)	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	区分３
目に対する重篤な損傷性/目刺激性	分類できない
呼吸器感作性	分類できない

皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
授乳に対する影響	分類できない
特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	分類できない
特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)	分類できない
吸引性呼吸器有害性	区分１
環境有害性	
水性環境有害性・急性	分類できない
水性環境有害性・慢性	分類できない

ラベル表示：

注意喚起後：　危険

危険有害性情報
- 可燃性液体
- 軽度の皮膚刺激
- 飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ

【安全対策】

注意書き：

- 熱、火花、裸火の様な着火源から遠ざけること。
- 容器を密栓しておくこと。
- 防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。
- 静電気的に敏感な物質を積みなおす場合は容器及び受器を接地、結合すること。
- 適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
- 使用前に取扱説明書を入手すること。
- すべての安全注意をよみ理解するまで取り扱わないこと。
- ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- 取扱い後はよく手を洗うこと。
- この製品を使用する近隣で飲食又は喫煙をしないこと。
- 環境への放出を避けること。

【応急処置】

- 火災の場合には、消火に適当な手段を講じること。
- 目に入った場合は直ちに水で注意深く洗うこと。
- コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

□ 気分が悪くなり回復が遅れる場合は早期に医師の診察を受けること。
- 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息すること。
- 皮膚についた場合は石鹸を用いて充分に洗うこと。
- 皮膚刺激又は発疹、アレルギー症状の現れた時は医師の診断を受けること。
- 飲み込んだ場合は口をすすぎ、直ちに医師の診断を受けること。

【保管】 ・ 容器を密閉して換気のよい涼しい所に保管すること。

【廃棄】 ・ 溶液および容器は地方自治体の条例に従って廃棄すること。

３．　組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別：　混合物

化学名	①	基油：合成炭化水素（イソパラフィン）	80.0～82.0%
	②	フルオロアルキルカルボン酸	0.7～ 1.0%
	③	イソステアリン酸	17.0～19.3%
化学式	①	$C_4H_9(C_4H_8)nC_4H_9$	
	②	ｎ－C_7F_{15}ＣＯＦ	
	③	$C_{17}H_{35}$ＣＯＯＨ	

化審法№.	①	(2)-10	安衛法№.	①	公表	ＣＡＳ№.	① 68551-20-2
	②	(2)-1182		②	公表		② 433-44-3
	③	(2)-608		③	公表		③ 30399-84-9

４．応急措置

吸引した場合：	医師に連絡すること。空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息すること。
皮膚に付着した場合：	衣類を脱ぎ石けんを用いてよく洗うこと。
眼に入った場合：	水で数分間注意深く洗うこと。異常感が残る場合は眼科医の診察を受ける。
飲み込んだ場合：	無理に吐かせないこと。直ちに医師の診察を受けること。
予想される急性症状及び遅発性	
症状：	データなし
最も重要な兆候及び症状：	データなし
応急措置をする者の保護：	データなし
医師に対する特別注意事項：	データなし

５．火災時の措置

消火剤：	泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス
使ってはならない消火剤：	棒状放水、水噴霧

特有の危険有害性：	燃え易い、加熱で発火する。火災で有害性ガスの発生の恐れ。
特有の消火方法：	火災発生場所の周辺には関係者以外の立ち入りを禁止する。
消火を行う者の保護:	適切な空気呼吸器、耐熱防護複を着用する。

６．露出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置：	消火用器材を準備する。作業の際には消火用保護具を着用する。 全ての着火源を取り除く。 直ちに全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。関係者以外の立ち入りを禁止する。
環境に対する注意事項：	環境に放出してはならない。
回収・中和、並びに封じ込め及び浄化の方法・器材：	速やかに全ての着火源を取り除き、漏洩箇所の漏れを止める。 砂等の燃えない吸収剤で漏洩物を吸収して廃棄容器に入れる。
二次災害の防止策：	全ての着火源を速やかに取り除く。 排水溝、下水溝、地下室等への流入を防ぐ。

７．取り扱い及び保管上の注意

取り扱い技術的対策：	「８．暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い保護具を着用する。
局所排気・全体排気 安全取り扱い注意事項：	「８．暴露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体排気を行う。使用前に使用説明書を入手すること。すべての安全注意を読み理解をするまで取り扱わないこと。 ミスト、蒸気を吸入しないこと。 取扱い後は良く手を洗うこと。 この製品を使用する所で飲食又は喫煙をしないこと。飲み込まないこと。
接触回避：	データなし
保管・技術的対策：	消防法の規制に従う。
混触危険物質：	データなし
保管条件：	熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。酸化剤から離して保管する。 容器は直射日光や火気を避けること。 容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。
容器包装材料：	金属容器が望ましい。

８．暴露防止及び保護措置

管理濃度：　未設定

許容濃度（暴露限界値、生物学的暴露指標）

日本衛生学会（2007 年版）：　未設定

設備対策：　消防法の規制に従う。
この物質を取り扱う作業場には洗眼器、安全シャワーを設置すること。

保護具

呼吸器の保護具：　適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具：　耐油性のゴム手袋を着用すること。

眼の保護具：　適切な眼の保護具を着用すること。

皮膚・身体の保護具：　適切な保護衣を着用すること。

衛生対策：　取扱い後はよく手を洗うこと。
この製品を使用する場所で飲食、喫煙をしないこと。

９．物理的及び化学的性質

物理的状態

外観：	黄色透明液体
臭い：	特有臭
ｐＨ：	データなし
初留点：	135℃以上
引火点：	74℃
自然発火温度：	200℃以上
燃焼性（個体、ガス）：	データなし
比重（密度）：	0.77～0.816／ｃｍ^3
分解温度：	データなし
溶解度（水）：	不溶解
流動点：	－50℃以下

上記に記載のないデータは現在の処、有力な情報を得ていない。

１０．安定性及び反応性

安定性：	安定
危険有害反応性：	データなし
避けるべき条件：	データなし
混触危険物質：	データなし
危険有害な分解性生物：	データなし

１１．有害性情報

急性毒性

経口：	データなし
経皮：	LD_{50}　＞5000mg/kg　（基油）
吸入：	データなし
皮膚腐食性・刺激性：	弱い刺激性あり
眼に対する重篤な損傷・刺激性：	データなし
呼吸器感作性又は皮膚感作性：	データなし
生殖細胞変異原生：	データなし
発がん性：	データなし
生殖毒性：	データなし
特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）：	データなし
特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）：	データなし
吸引性呼吸器有害性：	炭化水素であって、かつ動粘度率が 40℃で 20.5mm^2/s 以下である。

１２．環境影響情報

水性環境急性有害性：	データなし
水性環境慢性有害性：	データなし

１３．廃棄上の注意

残余物：　都道府県の知事の認可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。

容器：　洗浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

１４．輸送上の注意

国際規制

海上規制情報：	非該当
航空規制情報：	非該当
ＵＮ№.：	非該当
Ｃlass：	非該当

国内規制

陸上規制情報：	消防法　危険物第四類第三石油類　非水溶性 労働安全衛生法　非該当
海上規制情報：	非該当
航空規制情報：	非該当
特別安全対策：	食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

１５．適用法令

消防法：	危険物第四類第三石油類　非水溶性
労働安全衛生法：	非該当
（通知対象物質）	
毒物及び劇物取締法：	非該当
化学物質管理促進法：	非該当
水質汚濁防止法：	油分排出規制（５mg／ｌ 許容濃度） ノルマルヘキサン抽出分として検出される。
海洋汚染防止法：	油分排出規制（原則禁止）

１６．その他の情報

参考文献：1 許容濃度の勧告(1998)日本産業衛生学会　産業医学 35 巻
2 製品安全データシートの作成指針（日本化学工業協会）

製品安全データシートは危険有害な化学品について、安全な取り扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者に提供されるものです。
取り扱う業者は、これを参考として自らの責任において、個々の取り扱い等の実態に応じた適切な処置を講じることが必要である事を理解した上で、活用されるようお願い致します。したがって本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。